



信金中央金庫
SHINKIN CENTRAL BANK

地域・中小企業研究所 ニュース&トピックス (2015.4.24)

〒103-0028 東京都中央区八重洲1-3-7 TEL.03-5202-7671 FAX.03-3278-7048
URL <http://www.scbri.jp> e-mail: s1000790@FaceToFace.ne.jp

信用金庫の個人向け貸出先数の動向

とね かずゆき
刀襦 和之

ポイント

- 信用金庫の2014年9月末の個人向け貸出先数は、前年同期比1.4%減少の353万先となった。年度末ベースでは2013年度末に20年連続で前期を下回っており、件数減少が続いている。
- 先数減少の要因をみると、「住宅ローン等」が増加したものの、「カードローン等」および「その他」の減少で、差し引き5万件の減少となった。
- 地区別の個人向け貸出先数は、南九州を除く10地区で前年同期を下回った。2003年度末比では全11地区で先数を減らしており、なかでも東京の減少幅は4割を超えた。
- 2014年度上期中における信用金庫別の個人向け貸出先数と残高の増減状況は、先数・残高ともに増加が67金庫(25.0%)、先数・残高ともに減少は107金庫(40.0%)などとなった。
- 2014年9月末の国内銀行の個人向け貸出先数は、前年同期比2.5%減少した。2003年度末からの推移をみると増加傾向に転じている。

本稿は、日本銀行「貸出先別貸出金」より作成している。なお、賃貸住宅向け貸出(アパートローン)は、個人向け貸出に含めない。

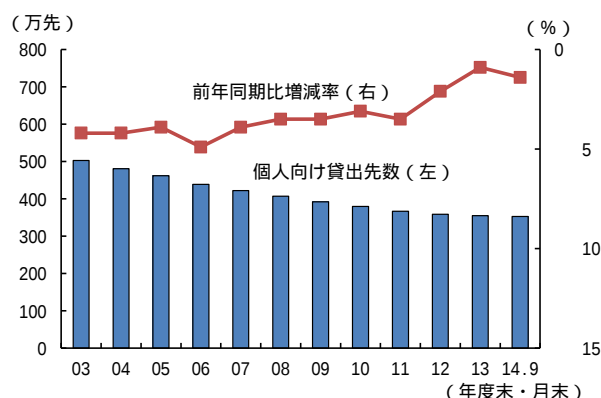
1. 個人向け貸出先数の状況

(1) 先数の推移

全国信用金庫の2014年9月末の個人向け貸出先数は、前年同期比5万先、1.4%減少の353万先となった¹(図表1)。顧客数の減少などから、個人向け貸出先数は2013年度末ベースだと20年連続で前期を下回っている。

2003年度末と比較すると、149万先、29.6%減少した。信用金庫の個人向け貸出金残高がこの間、7.1%減少したことを勘案すると、1先あたり残高は増加傾向にある。

(図表1) 個人向け貸出先数の推移

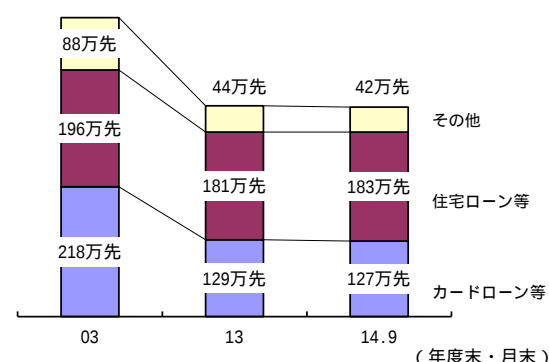


(2) 先数の内訳

2014年9月末の個人向け貸出先数の内訳は、住宅ローン等が183万先(構成比51.1%)、カードローン等が127万先(36.4%)、その他は42万先(12.4%)であった²。推進強化により、住宅ローン等の件数は前年同期比でも2.0%増加した。

2003年度末の先数と比較すると、住宅ローン等は6.6%、カードローン等は41.3%、その他は52.1%、それぞれ減少しており、なかでもカードローン等の減少が目立つ。

(図表2) 個人向け貸出先数の内訳の推移



¹ 2004年度には貸出業種の分類を実態に合わせたこと、2009年度には日本銀行「業種別貸出金調査表」の業種別分類が変更されたことから、両年度とも個人向け融資の一部が不動産業向け融資に振り替わっている。

² 「住宅ローン等」は、割賦契約の貸出を指し、住宅ローンに加え教育ローンやカーローンの割賦契約分を含む。「カードローン等」は、クイックローンやバンクカードを含む。「その他」は、割賦契約以外のローン、納税資金からなる。

2. 地区別の状況

2014年9月末の地区別の個人向け貸出先数は、南九州が微増となったほか、10地区で前年同期を下回った（図表3）。このうち東京、中国、四国の減少率は2.0%を超える。

2003年度末と比較すると、東京（42.2%減）の減少が突出し、北陸（34.4%減）中国（31.6%減）が続く。一方で、この間に個人向け貸出金残高が24.7%伸びた東海の先数は、20.5%減にとどまった。

3. 信用金庫別の状況

2014年度上期中における信用金庫別の個人向け貸出先数と残高の増減状況は、先数・残高とも増加が67金庫（構成比25.0%）、先数増加・残高減少が20金庫（7.40%）、先数減少・残高増加が73金庫（27.3%）、先数・残高とも減少が107金庫（40.0%）であった（図表4）。

先数と残高が増加した67金庫のうち、それ

ぞれ2.0%以上の増加を示した信用金庫は7金庫あった（東北1金庫、東海3金庫、近畿1金庫、南九州3金庫）。

また、住宅ローン等の先数・残高ともに増加した信用金庫が113金庫、カードローン等の先数・残高ともに増加した信用金庫は87金庫となった。

4. 国内銀行の推移

2014年9月末の国内銀行の個人向け貸出先数は、前年同期比44万件、2.5%減少の1,806万先であった（図表5）。

2003年度末を基準に個人向け貸出先数の推移をみると、2014年9月末の国内銀行は97.1、信用金庫は70.7となる。

個人ローンの強化を受け、国内銀行は住宅ローン等が110.9に上昇したうえ、カードローン等も97.3まで回復している。

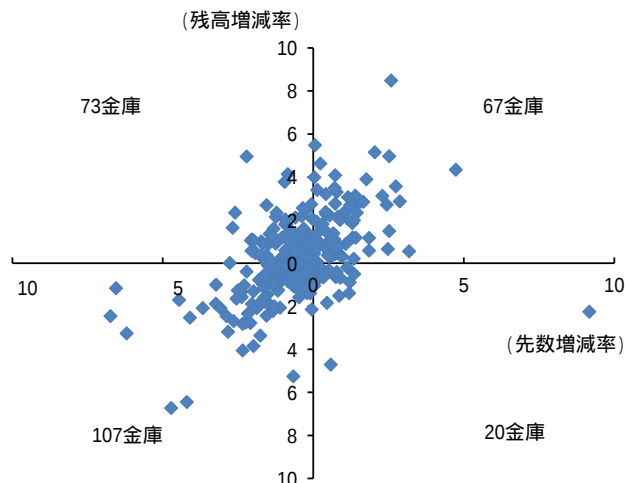
以 上

（図表3）地区別の個人向け貸出先数の推移

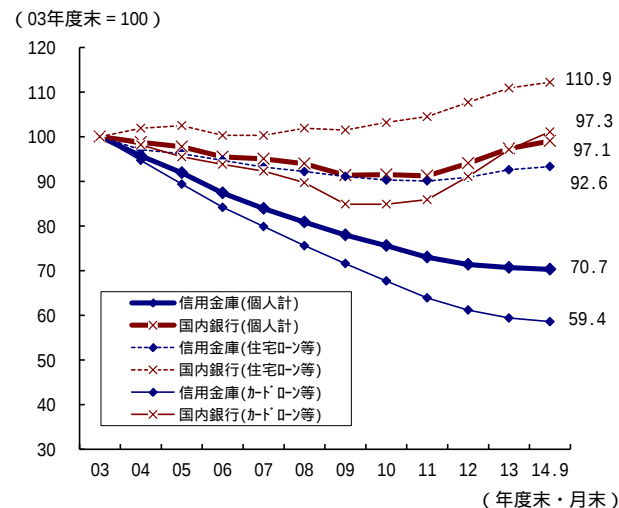
地 区	03年度末	13年度末	14年9月末	03年度末対比		13年9月末対比		(参考) 個人向け貸出残高	
				増減率	増減数	増減率	増減数	03年度末	14年9月末
北海道	26.9	18.4	18.4	31.5	8	1.4	0	7,851	6,834
東 北	34.5	24.1	24.0	30.4	10	1.1	0	7,980	6,010
東 京	63.9	37.4	36.9	42.2	26	3.2	1	43,050	31,584
関 東	96.8	68.3	67.6	30.1	29	1.7	1	39,599	36,450
北 陸	18.0	11.9	11.8	34.4	6	1.2	0	5,840	4,703
東 海	85.0	67.5	67.5	20.5	17	0.5	0	35,608	44,419
近 畿	88.6	63.3	62.7	29.2	25	1.4	0	37,131	35,645
中 国	31.9	22.0	21.8	31.6	10	2.3	0	9,473	8,212
四 国	18.1	13.5	13.3	26.5	4	2.4	0	4,595	3,502
九州北部	15.1	10.6	10.5	30.4	4	0.3	0	3,765	3,728
南九州	22.9	17.6	17.7	22.7	5	0.3	0	4,843	4,464
合 計	503.0	355.9	353.7	29.6	149	1.4	5	200,095	185,868

（備考）沖縄県は合計に含む。

（図表4）個人向け貸出先数と残高の増減状況
（14年度上期中）



（図表5）個人向け貸出先数の推移（指数）



本レポートは、情報提供のみを目的とした上記時点における当研究所の意見です。施策実施等に関する最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当研究所が信頼できると考える情報源から得た各種データ等に基づいて、この資料は作成されておりますが、その情報の正確性および完全性について当研究所が保証するものではありません。